

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

経済情報学部教務委員会

(責任者名) 齊藤善弘

(役職名) 経済情報学部 教務委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本プログラムの授業科目は1年次から4年次にわたっており、すべての必須科目が3年次までで受講できることから、令和4年度に受講を開始した学生が令和6年度に初めて修了認定を受けることになる。</p> <p>プログラムの履修状況は令和4年度の履修率が13%、令和5年度45%、令和6年度65%と順調に伸びている。しかし、1年次の必須科目である「AI基礎プログラミングⅠ」の受講者は75名であったが、そのうち3年次の必須科目である4科目「AI基礎プログラミングⅡ」「データ分析」「データサイエンス」「AI実践演習Ⅰ」をすべて受講した学生はわずか1名であった。この原因は本プログラムの学生への周知が不十分であったことが考えられる。</p> <p>また、高学年に配当されている科目は専門性が高いことから履修者数は少なくなる傾向が見られ、少人数制で丁寧な指導を実施することで履修者数、修了者数を増やす計画である。</p>
学修成果	<p>本プログラムを構成する科目の到達目標についてはシラバスに記載されている。</p> <p>本プログラムの学修成果については、修了した学生がどのような科目を履修して、どのような成績を収めたか、卒業後にどのような進路に進んだかなどを、教務委員会が就職委員会等と連携して経時的に調査する予定である。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>本プログラムを構成する科目では受講者に対して「学生による授業評価アンケート」を実施しており、学生の理解度や学修意欲等を把握し、授業内容及び方法の改善を図っている。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>本プログラムを構成する科目では受講者に対して「学生による授業評価アンケート」を実施しており、後輩学生や他の学生への推奨度については設問「今回の講義を友人や後輩等に推奨したいと思いますか。」で確認している。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本プログラムは学部独自プログラムであり、現在、全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画はない。</p> <p>しかし、本学ではMDASHリテラシーレベルの授業科目を令和4年度より開設しており、リテラシーレベルに興味をもった学生に対して、応用基礎レベルを履修することができるような副専攻プログラムを開設する予定である。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>学生の就職状況と履修状況を確認することにより、本プログラムを修了した卒業生の進路先については把握することが可能である。また、本プログラムを修了した卒業生の活躍状況や企業等の評価については、就職課が調査している。卒業生の活躍状況を収集するとともに、本学が実施する「企業向けアンケート(本学出身者に関するアンケート)」における「本学出身者に関して抱いている印象」に関する設問からの企業等から本学出身者に対する評価を把握できるよう検討している。</p> <p>本学では、地方自治体や地元産業界等と各種要望や地域の課題を共有するとともに、今後の経済・社会の発展をもたらす高等教育の在り方について意見聴取することにより、本学の自己点検・評価及び教育研究水準の向上に資することを目的とした「地域連携協議会」を毎年実施している。社会人の学び直しに関する内容や数理・データサイエンス・AI教育については、「地域連携協議会」において、意見聴取を行っている。収集した意見については教務委員会において本プログラムの検証・改善に活用している。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>本プログラムを構成する科目は、数理・データサイエンス・AI分野の専門性が高いため、数理、データ分析、AIなどの各分野における具体事例を紹介することで学生の興味関心を高め、学ぶ楽しさや学ぶことの意義を理解させている。学生が興味関心を示すような例を用いることによって、数理・データサイエンス・AIの「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させられるよう、今後も継続して検討する。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>内容・水準の維持・向上は、授業においてモデルカリキュラム(応用基礎レベル)の内容がシラバスに盛り込まれていることを確認するとともに、授業時の課題提出物及び「学生による授業評価アンケート」の「理解度について」等から、学生の理解度を把握し、講義の内容・実施方法の検討を行い、分かりやすい授業となるよう工夫している。</p> <p>また、プログラム全体の改善点については、教務委員会がデータサイエンス教育プログラムの維持向上に努める。本プログラムの必須科目である「情報と社会」では、社会における情報技術の発展や関わり、さらに生成AIに関する内容を含んでおり、教育内容は社会の変化を把握して対応している。</p>